



ボンジュール！日本の学校は夏休みに入り、イベントや旅行シーズンです（心の叫び：久しぶりに花火を見たい！）。ブルキナファソは雨季に入り、これまで茶色だった世界があったという間に青々しい緑一面に。7月中旬から学校も夏休みに入り、家族みんなで農作業に精を出す様子が至るところで見られます。久しぶりに見る活気に満ちた畑に、私も元気をもらっています！

## Quoi de neuf ? ▶▶▶ 1年間の活動について報告会を行いました。

活動1周年を迎え、6月にJICA事務所、7月には活動先にて中間活動報告会を行いました。私の活動は、市民の環境意識の向上と、市民が適切にゴミを管理できるようなゴミ回収システムの整備を目指したものです。活動は主に以下の3つです。

### ◎ゴミ回収システムの整備

現在クーペラ市では、市役所の委託により、ゴミ回収団体が街のゴミを集めたり、業者が街の外れ（街中心部から8kmほど）までゴミを運搬したりしています。しかし、市役所から団体への委託金がきちんと払われていない、トラックの燃料費節約のため最終集積場に途中まで畑にゴミが投棄されている、そもそもゴミ回収のための公共ゴミ箱自体が足りない、等の問題があり、街にゴミが溢れかえっている状態です。

また、この他に環境啓発団体と前任者が立ち上げたリサイクル商品製作団体が、プラスチックゴミ回収に動き出したところですが、環境啓発団体は回収したプラスチックの活用方法や啓発手法を、リサイクル商品団体は組織としての定着した活動形式を模索中です。これら各団体が地域に根付く活動を持続的に進められるような支援と、市役所へのゴミ回収システム改善策の提言、安価で丈夫なゴミ箱の導入等を行うことで、街のゴミがきちんと管理されるような仕組みをつくっていかれたらと思っています。



ゴミ回収団体への聞き取りを行うカウンターパート



組織としての活動を開始するために企画したリサイクル商品団体の運営会議

### ◎市民への環境啓発活動

ブルキナファソでは衛生や保健に関するプロジェクトは多く、市民の知識もわりとありますが、ゴミに関してはほとんど情報がなく、そもそもゴミを道に捨てることに問題意識をもっていない人が多くいます。ゴミについて考えてもらう機会をより多くするため、地域のお祭りでエコアートやポスター掲示を行ったり、村でプラスチックゴミの影響や現地布を使ったエコバックの作り方を紹介しています。また、市内の小学校で小学校5〜6年生に向けた環境教育も行っています。



子どもたちと空き瓶の蓋を使って絵をつくる



村での啓発活動

### ◎村の生活環境の改善

ある村で、改良かまどの設置や飲料水の適切な管理方法についての啓発を行っています。これらは植林活動について相談を受け、村人と話し合っただけのもの。植林するお金は高いですが、改良かまど（製作費ゼロ！）を使えば木の消費量は減らせ燃料費節約に。今あるものを活かした生活改善を伝えていきたいです。



自ら改良かまどをつくる女性たち

## Qu'est-ce que c'est ? ▶▶▶ イスラム文化、「カレム(断食)」って辛いなの？

6月28日から始まったイスラム教徒の行事、カレム(断食)。全世界のイスラム教徒が毎年この時期になると、約1ヶ月間の断食を行います。今回は、イスラム教徒でも断食しない人があるブルキナで、なんと自ら断食体験を行った松山隊員にカレム事情について聞きました。始めてから今月28日のラマダン(カレム明けのお祭り)まで、一度も昼間ものを口にしていないというから驚き。ちなみに私のキリスト教徒の友人は、親戚がイスラム教徒だからという理由でラマダンのモスクでのお祈りに参加してアッラーのために祈っていました。。。自由です、ブルキナファソ！（※注：もちろん厳格な方もたくさんいます。宗教観は人それぞれ。）

### ★カレムって何だろう？

カレムとは本来、神様（アッラー）とイスラム教に対しての信仰心を示すために行われるものです。個人の価値観や教典への解釈によって若干ルールは異なりますが、ブルキナファソで行われる一般的な断食の内容は以下のとおり。今回は松山隊員は以下のルールに従って断食に挑戦しました。

### カレムにおける掟

- 一、期間は七月のおよそ一か月間。（年によってやや変動あり）
- 二、日の出から日没までの間、あらゆる飲食を禁じる。日没後は飲食可能。
- 三、自分から食べ物の匂いを嗅ぐことも禁止。
- 四、男性は、日中に肌を露出させた女性になるべく関与しない。
- 五、他人の悪口を言わない、聞かない。意地悪なことをしない。
- 六、困った人がいれば助ける。
- 七、断食をするのは、通常十六歳以上の健康な大人。お年寄り・妊婦・乳幼児の母・病気のある人はしなくてよい。

### ★カレム期間における1日の流れ

- 04:00 起床。日の出までに食事と水分補給をできるだけ行う。その後再び就寝。
- 07:00 二度目の起床。身支度をして活動先へ向かう。
- 12:30 お昼休み。昼食はとらない。昼寝をする。
- 15:00 再び活動先へ。暑さがピークをむかえ、空腹とどのの渴きを強く感じる。
- 16:30 体が脱水気味になる。活発な行動がとれなくなる。
- 18:30 ここまで来ると心が穏やかになり、静かに日没の飲食解禁を待つようになる。
- 18:45 日没。まず水を飲む。その後食事を始める。
- 22:30 さらに水を飲む。翌朝分の食料を確保し、就寝。



日暮れとともに夕食準備をする松山隊員



イスラム教徒のおじいさんたち



ラマダンの日に久しぶりの昼食をとる松山隊員

ブルキナファソ人の同様に「断食はイスラム教徒でなくてもやれるよ。試してみたらどう？」と誘われ、興味本位でやってみました。初めは、のどの渇きがとてもつらかったですが、断食に慣れた今では、心が洗われてきた気がします。また、宗教・人間関係・貧困などについて思いを巡らすこともできました。ただし、断食中はどうしても活動量が落ち、睡眠時間も長くなります。また断食する場合、休日に若い日本人女性とは一緒にいないほうがいいかも。美味しいジュースを飲みながら、スイーツ話を華を咲かせ、午後の買い物の予定を立てている場に居合わせると、ちょっときついです...。(笑)

## クイズ du Burkina

### イスラム文化編

- Q1. 松山隊員と訪ねたある土産店。たまたま試食会が実施されていて、私は試食することに。松山隊員はカレム中なのでもちろん口にできなかったのに、店員に怒られてしまいました。なぜでしょうか？
- Q2. イスラム教徒の象徴である帽子と白いローブ。日差しの強いここブルキナファソでも、彼らの帽子にはツバがついていません。なぜでしょう？
- Q3. イスラムの象徴は月と星ですが、何色が象徴の色とされているでしょう？

## Ensuite?▶▶▶日本と違う？ブルキナファソの公務員制度

ブルキナファソの公務員制度は、日本のそれとは大きく異なります。まず、公務員の採用試験は非常に厳格で、筆記試験と面接試験が行われます。また、公務員の給与は非常に低く、生活が苦しいとされています。さらに、公務員の労働時間は長く、休暇も少ないとされています。このような状況下で、公務員になることは、多くのブルキナファソ人にとって大きな決断です。



カレム明け(ラマダン)の祈り。イソウテ市小学校校庭、写真提供:松山 遼 (隊員)